

『戦争と性暴力の比較史へ向けて』 刊行記念シンポジウム

プログラム

総合司会

蘭信三・佐藤文香

13:00 編者代表挨拶

上野千鶴子

13:10 第1部

コメント『戦争と性暴力の比較史へ向けて』をどう読むか？

川喜田敦子(中央大学)

中村理香(成城大学)

桜井 厚(日本ライフストーリー研究所)

岡野八代(同志社大学)

岩崎 稔(東京外国語大学)

14:50 <休憩>

15:30 第2部

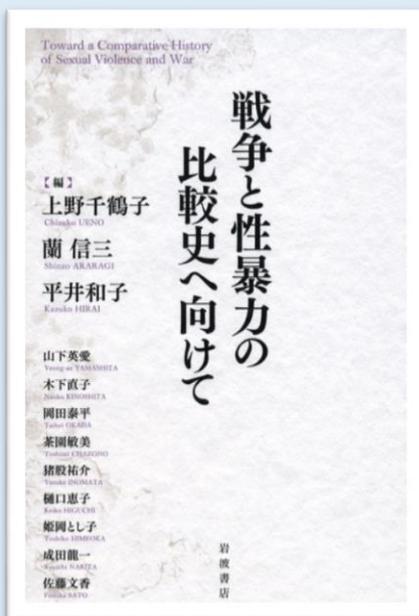
執筆者からのリプライ

16:20 第3部 総合討論

17:50 編者閉会挨拶

平井和子

18:30~20:00 懇親会



コメンテーター・プロフィール

川喜田敦子:ドイツ現代史、『ドイツの歴史教育』(白水社、2005年)

中村理香:アジア系アメリカ文学・文化/ジェンダー論/ポストコロニアル理論、『アジア系アメリカと戦争記憶—原爆・「慰安婦」・強制収容』(青弓社、2017年)

桜井 厚:社会学・ライフヒストリー/ライフストーリー研究・社会問題等、『境界文化のライフストーリー』(せりか書房、2005年)

岡野八代:政治思想史/フェミニズム理論、『フェミニズムの政治学—ケアの倫理をグローバル社会へ』(みすず書房、2012年)

岩崎 稔:哲学/政治思想、「〈慰安婦〉問題が照らす日本の戦後」『岩波講座アジア太平洋戦争 記憶と認識の中のアジア・太平洋戦争』(岩波書店、2015年、長志珠絵との共著)

日時:2018年5月13日(日)13:00~18:00

事前予約不要・資料代 1000円

主催:『戦争と性暴力の比較史へ向けて』刊行記念シンポジウム実行委員会

連絡先:kaken25245060@gmail.com

会場:上智大学四谷キャンパス 2号館 401教室

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

(JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線/四ツ谷駅麴町口・赤坂口から徒歩5分)

キャンパスマップ https://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/access_yotsuya.html



上野千鶴子・蘭 信三・平井和子編

『戦争と性暴力の比較史へ向けて』 (2018年2月岩波書店刊)

はじめに——戦争と性暴力の比較史へ向けて	編者
序章 戦争と性暴力の比較史の視座	上野千鶴子
第Ⅰ部 「慰安婦」の語られ方	
第1章 韓国の「慰安婦」証言聞き取り作業の歴史 ——記憶と再現とめぐる取り組み	山下英愛
第2章 「強制連行」言説と日本人「慰安婦」の不可視化	木下直子
第3章 日本軍「慰安婦」制度と性暴力——強制性と合法性をめぐる葛藤	岡田泰平
第4章 兵士と男性性——「慰安所」へ行った兵士／行かなかった兵士	平井和子
第Ⅱ部 語り得ない記憶	
第5章 セックスというコンタクト・ゾーン——日本占領の経験から	茶園敏美
第6章 語り出した性暴力被害者——満洲引揚者の犠牲者言説を読み解く	猪股祐介
第7章 引揚女性の「不法妊娠」と戦後日本の「中絶の自由」	樋口恵子
第8章 ナチ・ドイツの性暴力はいかに不可視化されたか ——強制収容所内売春施設を中心として	姫岡とし子
第Ⅲ部 歴史学への挑戦	
第9章 性暴力と日本近代歴史学——「出会い」と「出会いそこね」	成田龍一
第10章 戦時性暴力を聞き取るということ ——『黄土の村の性暴力』を手がかりに	蘭信三
第11章 戦争と性暴力——語りの正統性をめぐって	佐藤文香
あとがき	編者

本書の内容

戦争における性暴力を当然視・許容する語りに抗しつつ、また、生存戦略として行使される女性のエイジェンシー(行為主体性)を否定せずに、戦争と性暴力を問題化することはいかに可能か。性暴力当事者間の関係性のグラデーション(敵味方/同盟国/占領地/植民地、強姦/売買春/取引/恋愛/結婚)に注目し、さまざまな時代背景のなかでどのような加害・被害の語りが社会的に許容されるか、また、時期によって語りと聞き取りがいかに変遷するかを、さまざまな事例を比較して分析する。

岩波書店 HP より <https://www.iwanami.co.jp/book/b345698.html>